

阿蘇郡市中体研

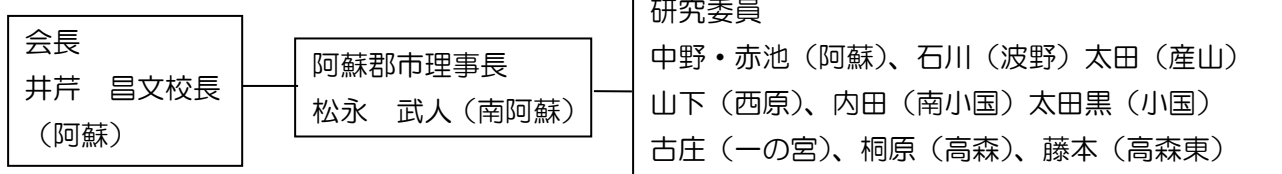
理事長 松永 武人

1 はじめに

これまで阿蘇郡市では、井芹昌文校長（阿蘇中学校）を中心に10校11名の保健体育科担当で研究を進めてきた。メンバーの入れ替えが特に多かった本年度ではあったが、積極的にコミュニケーションを図りながら連携を深め、進めることができた。授業研究会も開催し、意見の共有化を図るなかで、阿蘇郡市の研究の視点をさらに深め、今後につなげるための貴重な機会とすることができた。

研究の視点は、「自ら学ぶ力」をキーワードに、指導と評価の一体化に目を向けた授業構想を通して、生徒自身が何を学び、何が出来るようになったのかを明確化できることであり、そのための実践を進めてきた。

2 研究組織



3 活動状況

- 6月 8日 (水) : 第1回阿蘇郡市教育研究会保健体育部会 (阿蘇中学校)
<研究テーマ・組織・方向性の検討>
- 11月 18日 (金) : 第18回熊本県学校体育研究発表大会
(御船中学校、御船町スポーツセンター)
<授業: 「体づくり運動」、球技「バレーボール」>
- 11月 25日 (金) : 第2回阿蘇郡市教育研究会保健体育部会 (産山学園)
<授業: 器械運動「跳び箱運動」産山学園 太田 小咲稀 教諭>
- 2月 16日 (木) : 阿蘇郡市中体連・中体研反省会
<本年度の反省と来年度の志向(阿蘇市農村環境改善センター)>

4 研究テーマ

阿蘇郡市中学校体育研究会 研究主題
「主体的・対話的で深い学びを実現する保健体育の創造」
～自ら学ぶ力を育てるための有効な指導と評価のあり方について～

仮説: 「何を身につけさせたいか」という学びの質の向上と「何が身についたか」という評価の充実の二つの視点から授業を構想し、教師と生徒の学びの一体化を図ることで、自ら学ぶ力を育む生徒の育成につながるだろう。

視点1
ねらいの明確化

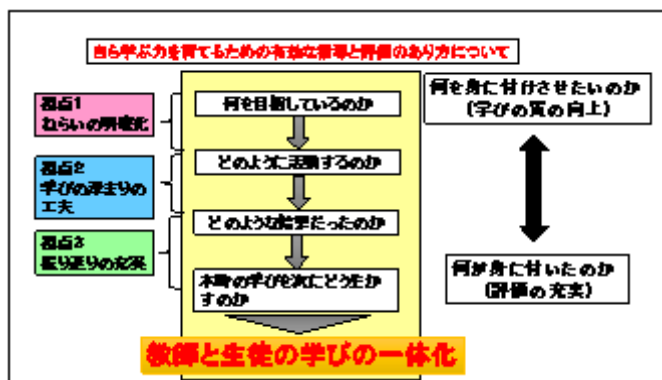
視点2
学びの深まりの工夫

視点3
振り返りの充実

〈POINT〉 教師と生徒の学びの一体化が図れた授業づくり

5 研究の概要

「この時間何を目指し、どのように活動し、どのような活動だったのか、本時の学びを次へどう生かすのか」という授業の骨格部分を教師が把握した授業展開に加え、学習の主体である生徒自身がそこを明確に伝えることができる授業展開のなかで、教師と生徒が学びを共有し一体的に進めていくなかで、「学びあって活動ある授業」が達成されていくという考えを先生方で共通理解を図った。そのための具体的な工夫として、視点1：ねらいの明確化 視点2：学びの深まりの工夫 視点3：振り返りの充実という3つの視点から授業の具体化を図っていくこととした。



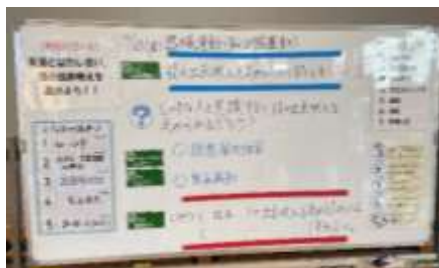
6 公開授業及び授業研究会

研究授業 器械運動「跳び箱運動」 授業者 太田 小咲稀 教諭（産山学園）

視点1：ねらいの明確化

視点2：学びの深まりの工夫

視点3：振り返りの充実



第8学年（中学校2年生）を対象に、跳び箱運動を行った。「技の出来栄を高めるためのポイントを伝えよう」というねらいの達成に向けて、それぞれの視点に沿った工夫とともに授業を展開した。特に視点2の学びの深まりの工夫として、手本動画をロイロノートで配布し、動きのポイントを明確化させ、「技のどこを改善するために」、「どのように」行うのかの理解促進につなげる様子が見て取れた。単元の最終像を共通把握し、その達成に向けて、見方・考え方を働かせて授業を行うなかで、生徒自身が何を目指し、その達成に向けて何を頑張っていくのかを理解しながら取り組むことができていた。教師と生徒が視点を揃えて学びを深めていた点において、成果を見て取ることができた。

6 まとめ

「この時間何を目指し、どのように活動し、どのような活動だったのか、本時の学びを次へどう生かすのか」という視点で、教師と生徒が学びを共有し、一体的に進めていくことを通して、「活動あって学びある授業」が達成されていくという考えを軸に、研究を進めてきた。また、その達成に向けて、視点1から視点3に沿って授業の具体化を図っていった。

本年度は、産山学園の太田小咲稀教諭による器械運動（跳び箱運動）の授業を受け、研究の視点に沿って、全員で研修を行った。学びの質の改善と評価の充実が一体化した授業の構想が、「活動あって学びある授業」の達成に向けて必要であり、そのための工夫をそれぞれの学校による実践も踏まえ、意見共有できたことは、非常に有益であった。引き続き実践に生かしていくなかで、研究の質を阿蘇郡市として深めていくことが今後の課題だと考えている。